

### シナリオベース実習を用いた体験先導型臨床基礎教育の教育効果

九州歯科大学 口腔機能学講座 口腔保存治療学分野

○諸富孝彦, 西藤法子, 吉居慎二, 平田-土屋志津, 鷺尾絢子, 市丸-末松美希, 中川愛加,  
中山皓平, 大塚麻衣, 藤元政考, 松山篤史, 浦田真梨子, 花田可緒理, 宮原宏武, 北村知昭  
Educational effects of the experience-led learning with scenario-based pre-clinical training

Division of Endodontics and Restorative Dentistry, Department of Oral Functions, Kyushu Dental University  
○MOROTOMI Takahiko, SAITO Noriko, YOSHII Shinji, HIRATA-TSUCHIYA Shizu, WASHIO Ayako,  
ICHIMARU-SUEMATSU Miki, NAKAGAWA Aika, NAKAYAMA Kohei, OTSUKA Mai, FUJIMOTO Masataka,  
MATSUYAMA Atsushi, URATA Mariko, HANADA Kaori, MIYAHARA Hirotake, KITAMURA Chiaki

【目的】本学では歯科医学・医療を統合的に教育することを目的として、臨床基礎教育のうち歯の治療学、部分欠損補綴治療学、口腔機能再建治療学、口腔インプラント学および口腔外科学の各実習に共通の1人の仮想患者を設定し、初診から終診までの治療を想定したシナリオベース実習を導入し、株式会社ニッシンと共同開発した統合模型 iDSimを用いて実習を行っている。当科が担当する「歯の治療学」（う蝕学、保存修復治療学、歯内治療学および歯冠補綴学概論）は、3年次前期に学習する学生にとって最初の臨床基礎教育科目である。本科目の受講にあたり学生は1. 予習として実習毎の課題に関して自己学習しレポートとして提出し、2. シナリオベースの体験実習を受講し、3. 実習後に内容に即した講義を受け、そして4. 治療技術習熟のために定着実習を行うという、講義に先駆けて実習を行う体験先導型臨床基礎教育を実施している。今回、平成26年度および27年度の「歯の治療学」講義・実習最終回に実施したアンケート調査をもとに、歯の治療学におけるシナリオベース実習と体験先導型教育法の有効性について検証した。

【対象と方法】本研究の主旨を説明し、同意を得られた第3学年の全学生（26年度：94名、27年度：97名）を対象として「歯の治療学」講義・実習最終回にアンケート調査を行った。アンケートでは1) 講義前に実習を行うことについて、2) シナリオベース実習について、3) 本教育カリキュラムの他教科への導入について、4) 実習前に行う予習と自宅学習について、5) 使用するノートブック（サブテキスト・実習書）についての各項目を調査した。

【結果および考察】74.9%の学生が「実習が先が良い」と回答し、そのうち85.3%が「既に実習で体験した内容を講義で確認するため理解しやすい」と答え、42.7%が「実習中に理解できなかったことがあると、集中して講義を聴くことができる」と答えた。一方、「講義が先が良い」と答えた25.1%の学生のうちの83.3%が「知識を身につけた上で実習を受けたかった」と回答し、64.6%が「実習前に講義が無いと、実習の目的や内容が理解できず身が入らない」と答えた。シナリオベース実習については81.7%が「シナリオがあった方がよい」と回答した。その理由としては多くの学生が「臨床時のことが想定でき、治療を意識して実習に取り組めた」と記載した。このようにシナリオベース実習を用いた体験先導型教育についての評価は高い反面、他の教科にも導入して欲しいとの回答は59.7%にとどまった。予習に関しては「予習を行うことが苦痛だった」に「（強く）そう思う」と回答した学生は33.5%で「（全く）そう思わない」との回答（33.0%）と近似していたが、「予習に積極的に取り組めた」との問いには「（強く）そう思う」と回答した学生が「（全く）そう思わない」より多かった（60.2%/10.5%）。また「学習内容が記憶に残りやすい」にも肯定的な回答が多かった（58.1%/13.1%）。さらにシナリオをベースとした予習により「臨床の場で遭遇するような、患者の訴えや症状から疾患を想起する訓練となった」との問いに対して45.0%が肯定的であり、否定的な意見（22.5%）を上回った。以上から、講義・実習に先立ち予習を行わせることは学生にとって有用であることが示唆された。一方、「予習を行うことを通して、疑問を自分自身で解決することができるようになった」との問いには肯定的/否定的な回答が同数であり（28.3%/28.3%）、「講義以外でも自己で学習する習慣が身についた」に対しては肯定的な意見を否定的な意見が上回ったことから（22.5%/36.6%）、学生に自主学習の習慣を習得させるには至らなかった。「予習のみではその日に行う実習内容が理解できなかった」「予習課題の問題設定が曖昧で、何を調べればよいのか分からなかった」「予習課題についてもっとヒントが欲しい」の各の問いに「（強く）そう思う」と回答した学生の割合は、平成26年度と比較し27年度で低下した。27年度の予習課題を、小問に分けるなど正解を導きやすいように改善した結果と思われる。

【結論】シナリオベース実習と体験先導型教育は臨床基礎教育法として有効であることが示唆された。